

2018年度第2四半期（4-9月）決算の概要

1. 経営成績

- (1) 連結売上高は、原料価格上昇に伴う販売価格改定などにより、前年同期比39億円増収（+5.0%）の820億円となりました。
- (2) 連結営業利益は、売買スプレッドの改善、高収益製品の販売数量増加およびコストダウンなどにより、固定費の増加による減益▲8億円を吸収し、前年同期比9億円増益（+15.5%）の68億円となりました。連結経常利益は、持分法投資利益の増加などにより、前年同期比16億円増益（+23.8%）の86億円となりました。

(単位：億円)

	連 結			
	2017年度 第2四半期累計	2018年度 第2四半期累計	前年同期比	
			増減	伸び率(%)
売 上 高	781	820	39	5.0
営 業 利 益	59	68	9	15.5
経 常 利 益	69	86	16	23.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	48	59	12	24.4
R O E (%) ※	7.7	8.9	1.2	—

※利益を年換算し算出

2. セグメント別連結売上高

(単位：億円)

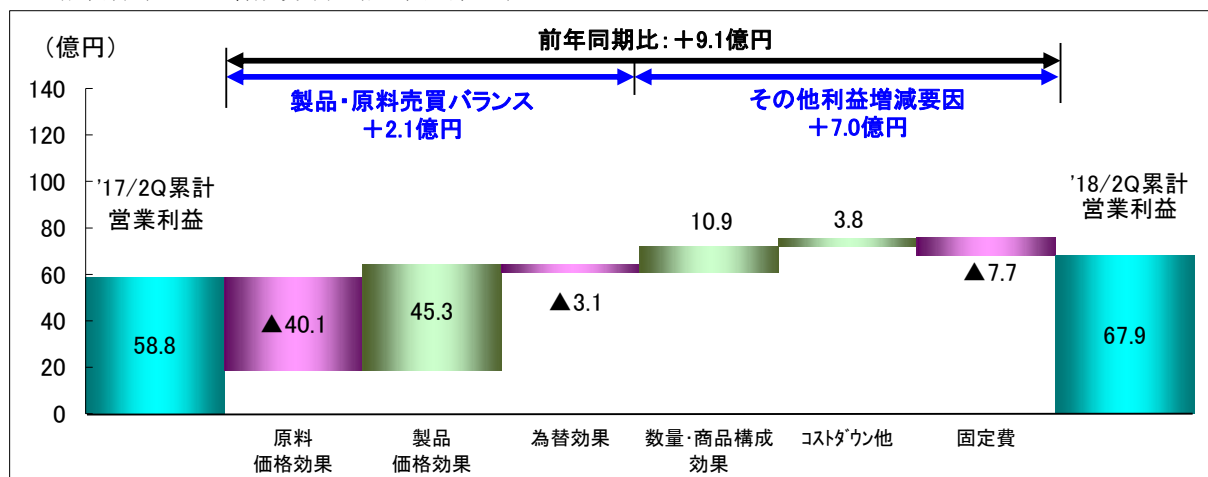
	2017年度 第2四半期累計		2018年度 第2四半期累計		前年同期比	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	293	37.5	299	36.5	6	2.1
石油・輸送機産業関連	197	25.2	209	25.5	12	5.8
プラスチック・繊維産業関連	110	14.0	112	13.6	2	1.9
情報・電気電子産業関連	96	12.3	111	13.5	15	15.5
環境・住設産業関連他	86	11.0	90	11.0	4	4.9
合 計	781	100.0	820	100.0	39	5.0

3. セグメント別連結営業利益

(単位：億円)

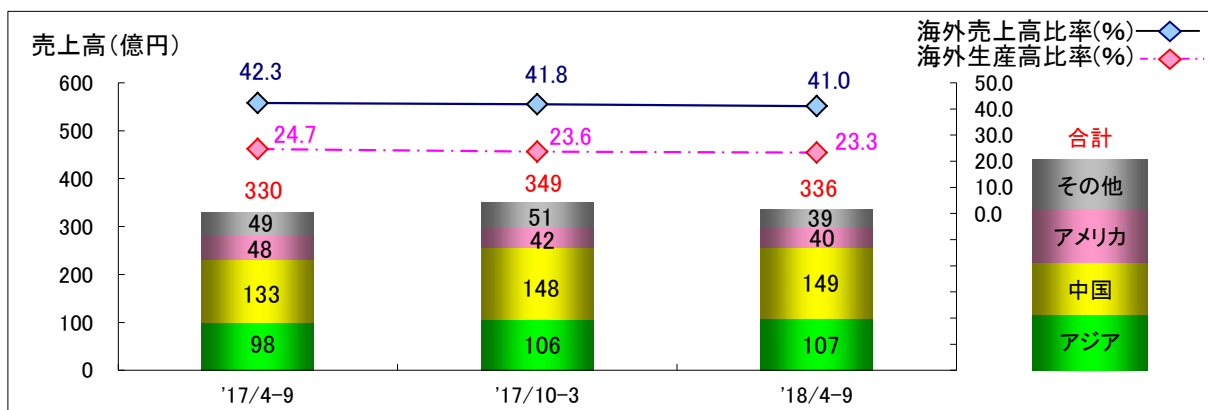
	2017年度 第2四半期累計	2018年度 第2四半期累計	前年同期比	
			増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	6.9	12.6	5.7	83.5
石油・輸送機産業関連	13.6	12.9	△0.7	△5.1
プラスチック・繊維産業関連	19.2	17.9	△1.3	△6.9
情報・電気電子産業関連	13.6	19.5	5.8	42.8
環境・住設産業関連他	5.5	5.1	△0.4	△7.4
合 計	58.8	67.9	9.1	15.5

4. 連結営業利益の増減分析（前年同期比）



5. 連結海外売上高の推移

その他地域で、高吸水性樹脂の売上が減少したため、海外売上高比率は低下しました。



6. 配当の状況

中間配当は、株主の皆様への一層の利益還元を図る観点から、1株当たり5円増配し、60円とさせていただきます。

	1株当たり配当金			配当性向 (連結)
	中間	期末	年間	
	円 銭	円 銭	円 銭	%
2014年度	37.5	40.0	77.5	29.1
2015年度	40.0	45.0	85.0	27.1
2016年度	45.0	55.0	100.0	21.6
2017年度	55.0	55.0	110.0	26.2
2018年度	60.0	60.0 (予想)	120.0	26.5 (予想)

(注) 2016年10月1日で普通株式5株につき1株の割合で株式併合しております。これに伴い、上表の配当金額は株式併合後の数値に換算し記載しております。

7. 2018年度業績予想（連結）

当第2四半期連結累計期間の業績は、平成30年5月公表の「平成31年3月期の連結業績予想」を上回りましたが、第3四半期以降は原料価格高騰による業績悪化が予想されるため、通期連結業績予想を据え置くこととしております。

なお、平成30年5月8日に公表した連結業績予想に対する当第2四半期累計業績の進捗率は、下表の通りです。

(単位：億円)

	第2四半期累計			年間累計	
	連結実績	連結業績予想	進捗率(%)	連結業績予想	進捗率(%)
売上高	820	840	97.6	1,720	47.6
営業利益	68	63	107.8	130	52.2
経常利益	86	71	120.8	145	59.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	59	49	121.4	100	59.5

<業績予想の前提条件>

為替レート：110円/\$、国産ナフサ価格：54千円/KL

8. 主な設備投資と減価償却費

(1) 設備投資額（検収ベース）、減価償却費の推移

(単位：億円)

	連 結		単 体	
	2017年度 第2四半期累計	2018年度 第2四半期累計	2017年度 第2四半期累計	2018年度 第2四半期累計
設備投資額	69	55	44	33
減価償却費	40	43	27	28

(2) 主な設備投資

(単位：億円)

投資アイテム		稼働時期	総投資額
単体	アルミ電解コンデンサ用電解液製造設備	2018年8月	4
	トナーバインダー製造設備	2018年8月	5
SDPグローバル(マレーシア)	高吸水性樹脂製造設備	2018年9月	108
サノカセイ(タイランド)	塗料用樹脂製造設備	2019年8月	4
単体・サノプロ	ウレタン関連製品製造設備	2019年10月	10

9. トピックス

(1) 韓国で潤滑油添加剤『アクループ』を生産

当社は、主力事業の一つである潤滑油添加剤『アクループ』シリーズの世界的な需要増に対応するため、韓国において新たな合弁会社「韓国三洋化成製造株式会社」を設立しました。

自動車業界では省燃費ニーズが高まっており、燃費向上効果が注目される『アクループ』の需要が拡大しています。当社グループでは、需要増に対応するとともに、BCP（事業継続計画）の観点からも、グローバルな生産体制の強化と生産拠点の複数化を進めています。

『アクループ』の生産拠点は、国内2カ所と米国及び中国の計4カ所あり、2020年に韓国で新設備が商業生産を開始することで、生産能力は現状の5.9万トン/年から7万トン/年に拡大する予定です。

(2) 高吸水性樹脂（SAP）の新たな製造技術を開発

当社グループであるSDPグローバル株式会社は、株式会社合同資源との共同開発により、高吸水性樹脂（SAP）の新しい製造技術を確立し、工業化に成功しました。

この技術により、SAPの網目構造を均一化し、吸水性能を大幅に向上することができます。また、従来技術と組み合わせることでSAP設計の自由度が高まり、性能に関する高度なニーズにも対応できます。

なお、今回の技術の有効性が評価され、2018年度ヨウ素学会賞に選ばれました。

(3) 近畿化学協会から環境技術賞を受賞

受賞の対象となった洗剤基剤『エマルミンCS-100』は、当社が長年培ってきた界面活性剤の設計技術を活かし、界面活性剤の分子構造を最適化することで、優れた生分解性を維持した上で洗剤の洗浄力を大幅に向上させることができます。

今後は衣料用洗剤分野だけでなく、他分野においても求められる性能と生分解性を両立した基剤等の環境や省エネ・省資源等に配慮した製品開発を行い、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

(4) 服装自由化の実施

当社は、全従業員が誇りを持ち、働きがいを感じる企業をめざし、第10次中期経営計画のスローガンである「変える。」のもと、本年8月20日より従業員の服装自由化を取り入れました。

当社では多様な人材が、多様な働き方・考え方でモチベーションを高く持って働けるよう、各種制度の思い切った見直しや規制緩和等に、取り組んでいきます。

(5) シルクエラスチンを用いた「革新的半月板損傷治療技術の創生研究」

当社が2009年に技術導入した機能性タンパク質「シルクエラスチン」は、細胞親和性が高く弾性に富み細胞の分化・増殖の足場に適していることから、様々な治療への展開が期待されており、現在、半月板の修復・再生が肝要となる膝関節疾患の治療分野をリードしてきた広島大学と共同で活用を検討しています。

今回、広島大学の動物実験で、半月板修復の足場（移植基板）としてシルクエラスチンの有効性が確認されたことを受け、同大学の研究課題である「革新的半月板損傷治療技術の創生研究」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「産学連携医療イノベーション創出プログラムセットアップスキーム（ACT-MS）」に採択されました。今後、臨床応用に向けてより具体的な研究開発を進めていきます。